

昨年6月 ぶらり散歩で紹介した「牧草ロール」の場面に、またも出会いました。



菜園で作業中、大型の農業機械が農道を行きました。6月とは異なる形式です。車両に牽引されているボックス(ロールベラー:干し草などを束ねる農機具)は初見です。前回と同じ、岡崎地区です。作業は、すでに稲の収穫が終え乾燥した水田に入り、枯れ草をボックス内に取り込み、円筒形のロール(巻物)に仕上げ、外に放り出されます。

一見すると、乾燥した水田には干し草がまとめられているわけでもなく、ただ、残されていた枯れ草を取り込んでいました。2段歩ほどの広さですが、10分ほど走り回り枯れ草は収納されました。



右手見られる円筒形のロールが一つ纏められました。そばに立つ人の背丈と比べてください。ロールの直径は百4・50cmほどです。

作業員たちは、ロールを残し、次の作業場へ急行して行きました。残されたロールは機械でラッピングされた後、保管場所へ運ばれ、発酵させ、家畜の飼料として熟成させます。

水田地帯に見られた光景です。地域で飼料をとされる、酪農が背景にあるのでしょうか。地域の農業のあり方が知れました。